

中学校特別支援学級 社会科学習指導案

1 単元名

第3章 日本の諸地域 3節 近畿地方 「3 古都の成り立ちと現在」「4 都市と郊外の成り立ち」

2 単元の目標

- (1) 伝統的な文化、歴史的な景観の保存と開発について、調和という視点から多面的に考える。
- (2) 大阪市の発展に私鉄が大きな役割を果たしてきたことを、地図などから考察する。

3 本校生徒の実態と配慮事項

本校の特別支援学級は、自閉症・情緒障害を対象とした学級である。在籍する生徒の障害の種類は、高機能自閉症やアスペルガー症候群、広汎性発達障害などで、知的障害を伴わない生徒が多い。

本校特別支援学級の教育課程は各教科学習において1～3年生とも普通学級の授業内容と同じものに取り組み3年間で普通高校に進学できる程度の学力を身につけることを目指している。また、本年度より1・2年生は5教科の授業で通常学級に交流教育して取り組んでいる。

社会の授業では、3名の生徒とも地理分野、歴史分野ともに比較的興味関心があり、毎時間集中して取り組んでいる姿が見られる。社会科の授業では、通常学級に在籍する支援の必要な生徒・特別支援学級の生徒の実態を考慮し、独自に作成したプリントとパワーポイントソフトを使ったデジタルテレビによる授業を行っている。本単元でも、様々な資料を準備し、生徒が興味を持ち・考え、知識を身につけていける授業を展開していきたい。

4 本時の目標

- (1) パワーポイントの資料から、自分の考えを書いたり発表したりすることができる（思考・判断・表現）
- (2) 教科書から必要な情報を見つけまとめることができる（知識・理解）（資料活用の技能）

5 本時の指導

(1) 本時の展開

	学習内容と活動	教師の指導○と支援◇	資料
導入	1 あいさつ 2 1分間スピーチ (判断・表現)(知識・理解)	◇ 授業へ気持ちが切り替えられるよう、言葉かけ ○ 写真の様子から生徒たちに考えさせる。 ⇒写真が本時の内容に関係してくることを促す	
展開	3 3 古都の成り立ちと現在 [貴族と寺社が作った都] 目標) 古都・京都の現在の様子と大阪郊外の成り立ちを知ろう 発問) 京都上空の写真からどのような街並みになっているか (思考・判断・表現)	○パワーポイントを操作し、解説/質問しながらプリントに記入させていく ◇生徒ごとに、記入するスピードが違うので、適時確認する。書き終わって待っている生徒に質問していく。 予測される返答 ・□に区切られている ・均等である ・オセロ・碁盤みたい etc...	テレビ PC プリント

	<p>【世界の人々を呼び寄せる観光地】 発問) 京都のイメージ書いてみよう</p> <p>発問) 日本の重要文化財ランキングを教科書から見つけてプリントに書こう。</p> <p>[近畿地方の確認問題] →</p> <p>4 都市と郊外の成り立ち 【流通の拠点となった商業都市】 発問) 大阪が発展した理由を教科書から抜き出して書こう</p> <p>【私鉄に沿って広がった郊外】</p>	<p>○ 箇条書きでよいので自由に書かせる</p> <p>◇ 生徒が発表したイメージをパワーポイントに入力していく。</p> <p>○ 教科書から必要な資料を見つけさせる。</p> <p>○ 時間によっては「宿題」にする</p> <p>○ 教科書のページ数を伝え、必要な箇所を抜き出して書く</p>	
ま と め	<p>4 本時のまとめ</p> <p>5 あいさつ</p>	<p>○時間があれば本時の内容について、何人かの生徒に質問する。</p> <p>○次回の内容の確認</p>	

6 評価

(1) プレゼンテーションソフトの資料から、自分の考えを書いたり発表したりすることができたか (思考・判断・表現)

(2) 教科書から必要な情報を見つけまとめることができたか (知識・理解) (資料活用の技能)

「 授業での配慮事項・デジタル教材等の活用について 」

1 生徒の板書を写す作業の削減

広汎性発達障害の生徒・視覚優位の生徒などの特性を考慮している。黒板に大量に書かれていく板書をノートに書き写すのは、「目と手の協応動作」の苦手な生徒・構造的に書くことが苦手な生徒にとっては厳しいことが多い。生徒によっては、「ノートに書き写す」だけで精いっぱい作業的な時間になってしまう。

「今、先生は何についてしゃべっているのか」「何が大事で・どこに書くのか」がわかるような授業プリントの作成を心掛けている。

2 デジタル教材の活用

プレゼンテーションソフトを活用。視覚優位（耳からの情報より目からの情報が主体になること）な生徒・周囲に気が散ってしまう生徒などに配慮している。教科書・資料集が「見ているが読み取れない」、情報が多すぎて「ポイントが分からない」生徒に対し、プリントのどこに記入すればよいかわかる・大事なポイントが分かるように作成を心掛けている。

また、画面が切り替わる・変化するといった動きも、注目することが苦手な生徒や気が散ってしまいがちな生徒の意識を向けるのに有効なことが多い。

3 考える時間を作る

板書の時間がない分、画像やグラフなどを見て、生徒に考えさせる・意見する時間・機会を多くしている。

デジタル教材を活用した授業の利点

特別支援の生徒への配慮ということのほかに「どのクラスにも均等な授業を展開できる」「一度授業プリント・プレゼンテーションを作成すればおさらいや復習などの振り返り授業も容易」といった利点もある。

デジタル教材を活用した授業の欠点

・準備に時間がかかる。1単位時間のプリント・プレゼンテーションの作成に3～5時間くらい。通常クラスの授業は週3時間あるので、最低10時間ほどは準備に時間がかかってしまう。

・アナログな力（ノートに書くなど）が身につかない。高校や大学では、教員による一方的な講義&板書という形式の授業である可能性が高いので、その時に適応できるか。

・授業がパターン化・作業的な内容に陥りやすいので、変化のある授業を準備していく必要がある